

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立切木小学校
-----	-----------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学校教育目標「自ら 気づき 考え 実行する」子どもの育成の実現のために、学力向上や心の教育等において、自己決定の場を設定し、共感的な人間関係を構築する取り組みを実践してきた。ソーシャルスキルトレーニングや授業改善(授業と家庭学習との連動)、道徳科の学習を通して、児童の自己理解や他者理解が深まっている。キャリア教育の一つであるマナー検定(修了検定・卒業検定)では、4年生以上の全員が合格することができたことから、そのことが伺える。</p> <p>・学力向上評価シート(マイプラン)を基として校内研究や授業改善に取り組んできたことにより、「授業がよく分かる」という回答が児童と保護者共に評価が高かった。県学習状況調査でも昨年度と比較すると成果が表れている。学習の基盤となる学習規律「3つの揃える」については、今後も引き続き児童保護者に啓発していく必要がある。</p> <p>・コロナ禍で地域との交流活動の場を設けることが少なかった。今後はコロナ禍に伴う行事精選及び内容を見直しながら価値ある体験活動を計画し、意見や要望等を踏まえ地域との交流を深めていく。更に「学校が楽しい」と感じる児童の育成を目指し、学校教育目標を念頭に置いて、学校や学級の取組等を工夫・改善し、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「自ら 気づき 考え 実行する」子どもの育成 「自ら学ぶ子」「思いやりのある子」「健康でたくましい子」</p> <p>自己指導能力の育成 ◇自己決定の場を与える ⇒ 課題等について、自分で考え、判断し、実行させる ◇自己存在感を感じ取らせる ⇒ 一人一人が活躍できる場や役割を設け、称賛する ◇共感的な人間関係 ⇒ 仲間と考える機会をつくり、相互理解を促す</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>本年度の5つの重点目標と重点取組</p> <p>(1)自ら学ぶ子どもの育成(自立した学習者の育成) ◇三つのそろえる ◇授業と家庭学習の往還 ◇アクションプランに基づいた授業展開</p> <p>(2)「思いやりの心をもつ子どもの育成 ◇「温かな心・言葉・行動」の実践 ◇道徳教育と人権・同和教育の充実 ◇自己肯定感と他者肯定感の伸長</p> <p>(3)たくましい心と体をもつ子どもの育成 ◇徒歩通学・外遊びの奨励 ◇スポーツチャレンジの充実</p> <p>(4)進んで読書をする子どもの育成 ◇図書の時間の確保と必読書の奨励 ◇各学年の貸出冊数を意識した読書指導</p> <p>(5)小中連携による社会性を身に付けた子どもの育成 ◇ソーシャルスキルやグループエンカウンター継続実施 ◇マナー検定(修了検定・卒業検定)の実施 ◇地域から学び、志を高める教育活動の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	<p>●全職員による共通理解と共通実践</p> <p>○授業規律と学習の進め方の工夫「わかる・できる・楽しい」授業づくり</p>	<p>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上</p> <p>○「授業がよく分かる」と回答する児童や保護者90%以上</p> <p>○「3つのそろえる」ができる児童80%以上</p> <p>○自分で計画を立てて家庭学習をしている児童80%以上</p>	<p>・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。</p> <p>・アクションプランに基づいた授業実施(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)と「3つのそろえる(準備力)」の指導の徹底</p> <p>・自己の学習を振り返り、家庭学習計画を立てる時間を設定する。</p>			
●心の教育	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p> <p>○いじめの早期発見、早期対応体制の充実</p> <p>○いじめを許さない風土づくり</p> <p>○明るく元気な「あいさつ・返事」を身に付ける</p> <p>○夢や目標に向かい努力しようとする気持ちを育て教育活動の推進</p>	<p>○「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりの活動をしている」と思うと回答した児童85%以上</p> <p>○「温かな心・言葉・行動」ができたと思うと回答した児童85%以上</p> <p>○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教師85%以上</p> <p>○「いじめゼロの約束」を守れていると回答する児童85%以上</p> <p>○「明るく元気なあいさつ・返事ができた」と回答する児童85%以上</p> <p>○夢や目標をもっている」と回答する児童85%以上</p> <p>○マナー検定(卒業検定・修了検定)での合格者90%以上</p>	<p>・人権集会や道徳科や学級活動等で人権意識の高揚を図る。</p> <p>・縦割り班活動や体験活動を通した「心の教育」を行う。</p> <p>・週に1回、職員連絡会後に生徒指導に関して共通理解する場を設け、複数の目で児童を観察する体制づくりに努める。</p> <p>・児童発表による「いじめゼロ」を目指す取組を浸透させ、学期ごとにいじめに関する学校生活アンケートを実施する。</p> <p>・あいさつや返事が上手な児童を全校で紹介し、意識付けを図る。</p> <p>・地域人材人材やOB、OGを活用し、「なりたい自分になる」ためのキャリア教育を意識して取り組む</p> <p>・キャリア教育の一つとして、ソーシャルスキルトレーニングを各学年、月に一度行う。</p> <p>・マナー検定(卒業検定・修了検定)の実施</p> <p>・外遊びの奨励、スポーツチャレンジでの個人目標の設定</p> <p>・家庭との連携、歯磨き習慣が身に付いた児童の紹介と称賛</p> <p>・「早寝・早起き・朝ごはん」カードで意識を高める。</p>			A	<p>・「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりの活動をしている」と思うと回答した児童89.6%で、数値目標を達成した。また、人権集会では、OGTAについて、講師を招請し話を聞くことで、子どもたちの人権意識の高揚を図ることができた。</p> <p>・「切木小にやさしさを広げよう」の課題で話し合い、決まったことを縦割り班等で行ったことで、友達のやさしさや自分の良さに気付くことができた。「温かな心、言葉、行動」ができたと思うと回答した児童は83%であった。さらに豊かな心を育てる活動が必要である。</p> <p>・「いじめのない学校づくりのために組織的対応ができている」と回答した教員は100%で目標を達成することができた。</p> <p>・「いじめゼロの約束を守れている」と回答した児童98%で、目標を達成することができた。また、「学校はいじめのない学校づくりに努めている」と回答した保護者は91.5%であった。</p> <p>・1月末の調査では、「明るく元気な挨拶をしている」と回答した児童は87.9%、「元気な返事をしている」と回答した児童は83.3%であった。挨拶や返事の指導を行っている教員は100%であった。返事については、指導法の工夫が前に必要である。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症防止のため地域人材の活用はできなかった。1月末の調査では、「夢や目標をもっている」と回答した児童は83.4%で目標を下回った。児童玄関に自分の夢や目標を掲示する場所を設けたが、地域人材の活用等の工夫が必要であった。</p> <p>・ソーシャルスキルトレーニングの取組で、友達との関わり方が向上してきた。</p> <p>・マナー検定は、新型コロナウイルス感染によるまん延防止等重点措置期間だったため、中止とした。</p>	A	<p>・人権集会での講師による講話は、児童の人権意識を高めるためのよい取組だと思う。「やさしさを広げよう」の実践のように、児童発表による活動から、豊かな心を育てることに繋がっていると感じる。</p> <p>・学校生活の問題行動等については、児童の様子やアンケート結果から早期対応をされており安心できる。</p> <p>・いじめ防止対策委員会で話題に上がった児童の実態よりも、よりよい方向に改善されているのが分かる。</p>	<p>・道徳教育推進教師</p> <p>・人権・同和教育担当者</p> <p>・特活部</p> <p>・生徒指導主事</p> <p>・生活部</p>
●健康・体づくり	<p>①「運動習慣の改善や定着化」</p> <p>②「望ましい生活習慣の形成」</p> <p>○(学校独自重点取組・任意)</p>	<p>①授業以外(昼休み等)で、外での運動やスポーツを行う児童85%以上</p> <p>②就寝前の歯磨きの習慣が身に付いている児童85%以上</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」の実施率90%以上</p> <p>○(学校独自重点取組・任意)</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症防止のため地域人材の活用はできなかった。1月末の調査では、「夢や目標をもっている」と回答した児童は83.4%で目標を下回った。児童玄関に自分の夢や目標を掲示する場所を設けたが、地域人材の活用等の工夫が必要であった。</p> <p>・ソーシャルスキルトレーニングの取組で、友達との関わり方が向上してきた。</p> <p>・マナー検定は、新型コロナウイルス感染によるまん延防止等重点措置期間だったため、中止とした。</p> <p>・なわとび大会は全校での実施ができなかったが、各学年グループで大会とほぼ同様の内容で実施できた。昼休み等にはなわとびの練習をしたり元気に外で遊んだりする姿が見られ、体力向上を意識した児童が96%であった。</p> <p>・今年度も給食作文コンクールを実施し、給食調理員さんや栄養士さん等に向けて、感謝の気持ちを全児童が書くことができた。また、「早寝早起朝ごはん」の取り組みを2回行うことで、家庭でも食の大切さに対する意識が高まった。(96%)「夜の歯みがき」への取組は、2月までに100%の児童ができていた。</p>			A	<p>・「なわとび大会は全校での実施ができなかったが、各学年グループで大会とほぼ同様の内容で実施できた。昼休み等にはなわとびの練習をしたり元気に外で遊んだりする姿が見られ、体力向上を意識した児童が96%であった。</p> <p>・今年度も給食作文コンクールを実施し、給食調理員さんや栄養士さん等に向けて、感謝の気持ちを全児童が書くことができた。また、「早寝早起朝ごはん」の取り組みを2回行うことで、家庭でも食の大切さに対する意識が高まった。(96%)「夜の歯みがき」への取組は、2月までに100%の児童ができていた。</p>	A	<p>・持久走大会やなわとび大会等、3密を避けるなどの感染症対策を講じた取組をしてもらっていると思う。可能な範囲で体力向上に取り組んでもらっている。</p> <p>・児童も保護者も「早寝・早起き・朝ごはん」や「夜の歯みがき」への意識が高まっていることは感心できる。</p>	<p>・体育主任</p> <p>・養護教諭</p> <p>・保健部</p>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p> <p>○(学校独自重点取組・任意)</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。月平均45時間を超えない割合87%</p> <p>●定時退勤日の実施率87%</p> <p>○(学校独自重点取組・任意)</p>	<p>・業務の平準化、タスクマネジメントの意識化、内容と提出期日の可視化</p> <p>・定時退勤日の浸透と確実な実施</p>			A	<p>・定時退勤日については、83%を超える職員が実施できており、時間外勤務の月平均45時間以内については、2月までの達成率が、91.7%であった。タスクマネジメントを意識した業務遂行ができてきたと言える。今後も継続して、業務効率化の推進を図っていく。</p>	A	<p>・近年、教職員は業務多忙で、休職者が増えていると聞く。切木小の先生方には、今後も業務改善を進めていただき、心身ともに元気で教育活動にあたってほしい。</p>	<p>・管理職</p>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○	○教員の専門性と意識の向上	○合理的配慮を要する児童への理解が向上した教員80%以上	<p>・特別支援に関する研修会の実施(個別対応・支援の在り方・合理的配慮等について)</p> <p>・校内支援委員会開催による児童理解の浸透</p>			
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・			・	・	・	・	・

5 総合評価・次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p> <p>・学校教育目標「自ら 気づき 考え 実行する」子どもの育成の実現のために、学力向上や心の教育等において、自己決定の場を設定し、共感的な人間関係を構築する取り組みを実践してきた。ソーシャルスキルトレーニングや授業改善(授業と家庭学習との連動)、道徳科の学習を通して、児童の自己理解や他者理解が深まった。今後は、縦割り活動を生かしリーダーとフォロワーの関係性を充実させ、活気ある児童の育成を目指していきたい。</p> <p>・学力向上評価シートを軸として校内研究や授業改善に取り組んできたことにより、「授業がよく分かる」「個に応じた指導や分ける授業行う努力」に対する回答が児童と保護者共に9割を超え評価が高かった。県学習状況調査では、4, 5, 6年生の各教科8調査の内、5調査で県平均正答率を上回った。次年度に向けて、課題が見られた算教科も含め、全職員で授業改善に向けての取組を共有し実践していく。</p> <p>・コロナ禍ではあったが、地域との交流活動の場をできるだけ設定した。その都度、積極的に広報活動を行い地域に情報発信してきている。今後もコロナ禍における行事の見直しを図りながら、価値ある体験活動を計画し、意見や要望等を踏まえ地域との交流を深めていく。更に「唐津が好き」「切木が好き」「学校が好き」と感じる児童の育成を目指し、学校教育目標を念頭に置いて、学校や学級の取組等を工夫・改善し、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。</p>
----------------	---